

市長記者会見記録

日時：2023年7月18日（火）14時00分～14時10分

場所：第3庁舎18階 講堂

議題：市政一般

<内容>

【市政一般】

【司会】 ただいまより定例市長記者会見を始めます。本日の議題は市政一般となっております。それでは、早速質疑に入りますが、進行につきましては幹事社の方によりしくお願いいたします。

《子ども夢パークについて》

【NHK（幹事社）】 幹事社のNHKです。

今週末、23日で、川崎市の夢パークが20年になると思います。川崎市が日本で初めてつくった子どもの権利条例を体現する施設として20年間運営してこられて、これまでの成果と、感じていらっしゃる課題というところをお伺いしたいなと思います。

【市長】 この20年間運営してくれてきた、あるいは協力していただいた皆さんに心から感謝申し上げたいなと思っています。

やはりこの都市部の中で、何というんですかね、生きづらさを感じている子どもたちや様々な課題を持っている子どもたちが、いろんな人たちと関わりながら、自由に、遊びながら学ぶ施設というのが、なかなかほかの自治体でもないような先進的な事例を積み重ねてきたことにとてもうれしく思っていますし、あそこの理念として、けがと弁当は自分持ちみたいな、何でも誰かのせいにするみたいな話じゃなくて、多少のけがであれば、それは自分、そういうふうには遊んだらなるものだよみたいなことを教えているという、その精神というのはすばらしいなと思いますし、僕もあそこで泥んこになってみんなと遊んだという経験もあります。

本当はもう少しああいう施設が広がってくればいいなと思っているんですけども、なかなか土地、施設の問題とかもあってあれですけども、夢パークとしての機能というのは、十分に今も変わることなくというか、設立した当初以上に、いろんな形で貢献していただいていると思います。これからも大切にしていきたいと思っています。

【NHK（幹事社）】 関連してもう1点だけ。今、不登校の子どもが過去最多を迎える

中で注目度も高まっていると思いますが、なかなか公設民営、こういう形で広がって
いっていないというのが全国的な実情かなと思います。運営されている川崎市として、
これが広がっていくためにはどのような取組が必要だと考えられますか。

【市長】 やっぱり人材育成のところは非常に大きいと思います。運営をしていただ
いている方たちというのは、僕も常々、市長になってから10年間ぐらいずっと言い
続けていますけれども、やっぱり後進を育ててくださいと、人を、職員さんというの
はとても大事なので、子供と、毎日いろんな方と向き合っていくというのは、やっぱ
り並大抵のことではないので、スーパーな人がいるということだけではなくて、より
多くの人たちが、ああいう施設を運営していくのはすごく難しいことなので、そう
いう意味では人なんだと思います。ですから、そのところがなかなか全国的に広がっ
ていかない1つの要因かなとは思っていますけれども。はい。

【NHK（幹事社）】 分かりました。ありがとうございます。

NHKは以上で大丈夫です。

《「こども誰でも通園制度」について》

【読売（幹事社）】 幹事社の読売新聞から何点か質問させていただきます。

誰でも保育についてお伺いしたいんですけど、ほかの自治体では、モデル事業とし
てもう運営している自治体もあると思うんですけど、川崎市の導入の国とのやり取り
の状況と、どういう方針かというのが決まっていたら教えていただきたいと思うん
ですけど。

【市長】 この前の会見でも少し、国の保育施策の、いわゆる誰でも保育のようなど
ころと、私ども、まだ保育需要が非常に高いところ、ほぼ空きが出てきちゃって
いるところと、私どものような都市部では大分その状況が違うよねと。だから、保
育的なニーズがなくても、あるいは、預けられるというのと、やや私たちは状況が
違うのかなと思っています。

ただ、いわゆるレスパイト的な機能というのは非常に重要だと僕たちは思っていて、
そういうところはもう少し充実していかなきゃいけないという、普通の保育とは違
った意味でのですね、そういった機能はこれからも大切だと思っていますが、国の政
策と常に連動しているか、誰でもいつでもというふうな、そういうものとは私たち
状況があまりにも違うので、そういう形にはなっておりませんが、そのことは
国のほうにもお伝えしております。

【読売（幹事社）】 ありがとうございます。

幹事社からは以上です。

《川崎市議会会派構成の一部変更について》

【NHK（幹事社）】 各社さん、お願いします。

【東京】 東京新聞です。

先週、維新の市議団が分裂という結果になりまして、1回の定例会が終わったところで、この間の市議選で躍進したところというので、全国的にも躍進の後だったということもあって、川崎で早くも分裂したというのが全国的にも注目されている部分もあるのかなと思うんですけども、市長としては今回の動きというのをどういうふうに御覧になっていますでしょうか。

【市長】 いや、特に感想は、ごめんなさい、ありません。いろんな事情があるんでしょうから、各会派の動きに私からコメントはちょっと控えたいと思いますけれども、特に感想はありません。

【東京】 特に、委員会での賛否と本会議での賛否が異なるというのが、議会の中の方は結構お怒りだったりもしたんですけど、市長の立場としては、まあ別にといいところですかね。

【市長】 議会の賛否の問題は、議会のルールについて私がコメントするのはちょっと出過ぎているかなと思いますので、そこは議会にお任せします。

【東京】 ありがとうございます。

《太陽光発電設備について》

【tvk】 テレビ神奈川です。

今日も大変な暑さが続いていますけれども、気になるところとしては、やっぱりエネルギーの問題かなと思います。政府からは節電の要請もされて、川崎としては太陽光発電に取り組んでいく中で、改めてこの暑さの中で、エネルギー問題、どんなふうに現状を打破するために取り組んでいかなきゃいけないというのは、改めていかがでしょうか。

【市長】 熱中症がすごく増えているので、とにかく今の段階では、緊急的には、とにかく冷房を適切に使ってほしいというのはあるんですけども、それはちょっと置いておいての話で、中長期の話をすれば、やはり地球温暖化の影響が世界中で起きているということは、もう私たち、身にしみて分かっていることだと思います。ゆえに、脱炭素への動きというのはさらに加速させていかなきゃいけないと。

本市はエネルギー供給基地になっておりますので、その由来をどう替えていくのか。化石燃料から、私たちは、大きく言えば水素にという形で脱炭素の世界観をつくっていくということは、川崎のためだけではなく、我が国の脱炭素化に大きく貢献すると

いう意味で、川崎でできることを全力でやっていくということを、こういう日に改めて思っております。

【t v k】 太陽光パネルの普及に関してなんですけれども、パネルの再利用、リサイクルも非常に大きな課題の1つだと言えると思います。今、東扇島のほうに1つ工場がありますけれども、まだ規模としては小さいと。これについては、どんなふうに課題を感じていらっしゃるでしょうか。

【市長】 私も視察をさせていただいて、先行的にああやってリサイクル工場が市内にあるということ自体も大変うれしいことでもありますけれども、実際の事業系の（※補記）パネルが大量廃棄に入ってくる時代というのは大体10年ぐらい先の話なので、5年から10年先ぐらいのタイムスパンになってくると思います。そのことを見据えて、民間企業の、リサイクラーの皆さんも、そういったところに目を向け始めていますので、川崎で太陽光もリサイクルしていく、再利用していくという環境がこれからもつくられるということを、企業の皆さんとも一緒にやっていきたいと思っています。

【t v k】 ありがとうございます。

【市長】 大量廃棄、たしか2030年ぐらいからだったんじゃないかなと思うんですけれどもね。

【t v k】 2030年。

【市長】 うん。大体2030年ぐらいに大量廃棄が始まってくるという感じなので、もう少し、6年、7年はあると思うんですけれども、それからだーっと始まっていくので、少し時間はあると思いますよね。

【t v k】 それは、今設置されているものが廃棄、経過になってくるという。

【市長】 そういうことですね。今もう実際に使っているものが、償却期間というか耐用年数が来て、廃棄し始められるのがそのぐらいなので。10年ぐらい前に設置されたものなんですか、そういったものが廃棄されてくるということなので、まだ、本当に一生懸命取り扱いたいんだけど物がないという状況なので。もう少し、リサイクルのタイミングになると、それに合わせたリサイクラーというのがたくさん出てくるんだろうなと思いますね。

【司会】 その他、いかがでしょうか。

それでは、以上をもちまして市長記者会見を終了いたします。ありがとうございました。

（以上）

・この記録は、重複した言葉づかい、明らかな言い直しや質問項目などを整理した

上で掲載しています。

(お問合せ) 川崎市役所総務企画局シティプロモーション推進室報道担当

電話番号：044(200)2355